

北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

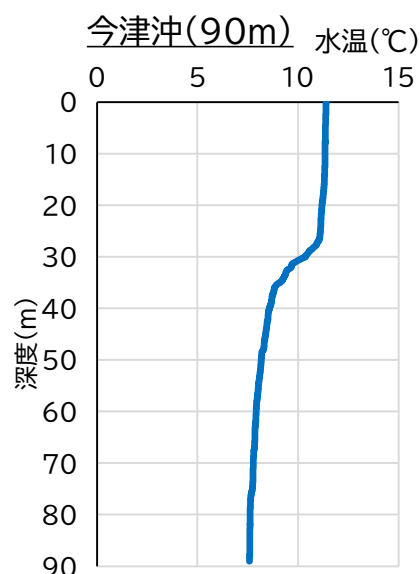
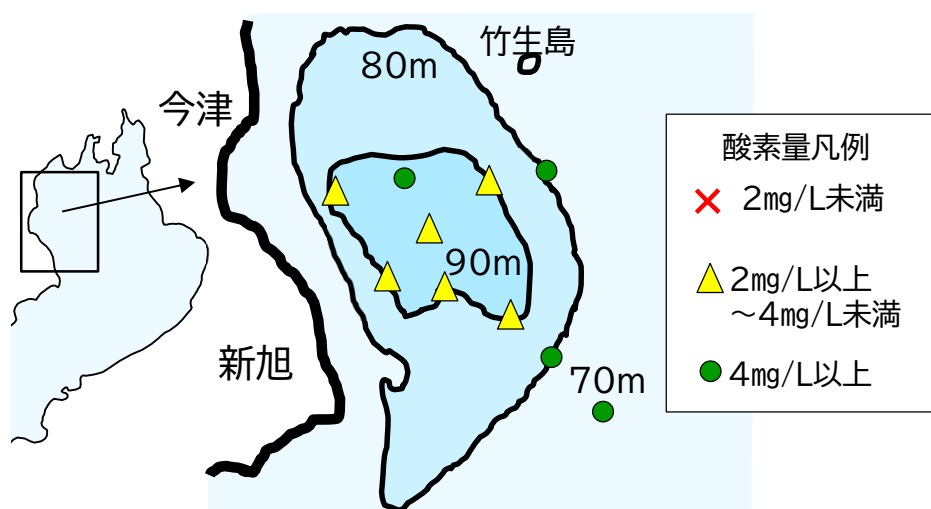
2026年1月9日

滋賀県水産試験場

琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

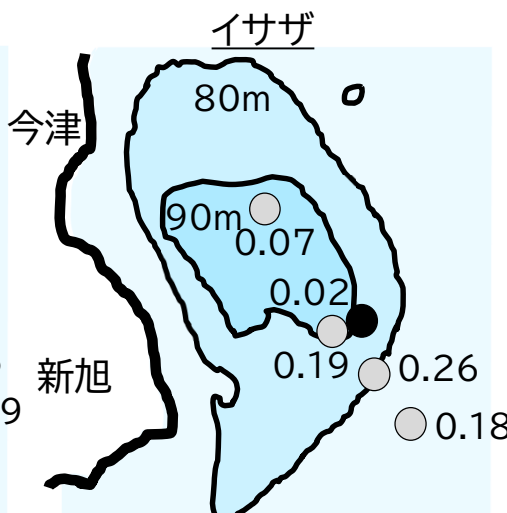
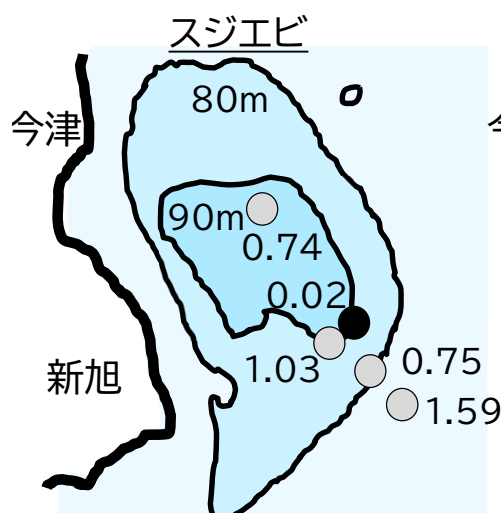
そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量(2025年12月19～23日時点)



- ・湖底直上1mの酸素量は全ての地点で2mg/Lを上回りました。
- ・湖底水温は7.6℃でした。

○スジエビ等の生息状況(2025年12月19日時点)



・スジエビ
死亡個体は水深90mの南側の水域のみで確認されました。

・イサザ
死亡個体は水深90mの南側の水域のみで確認されました。

